

## 財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

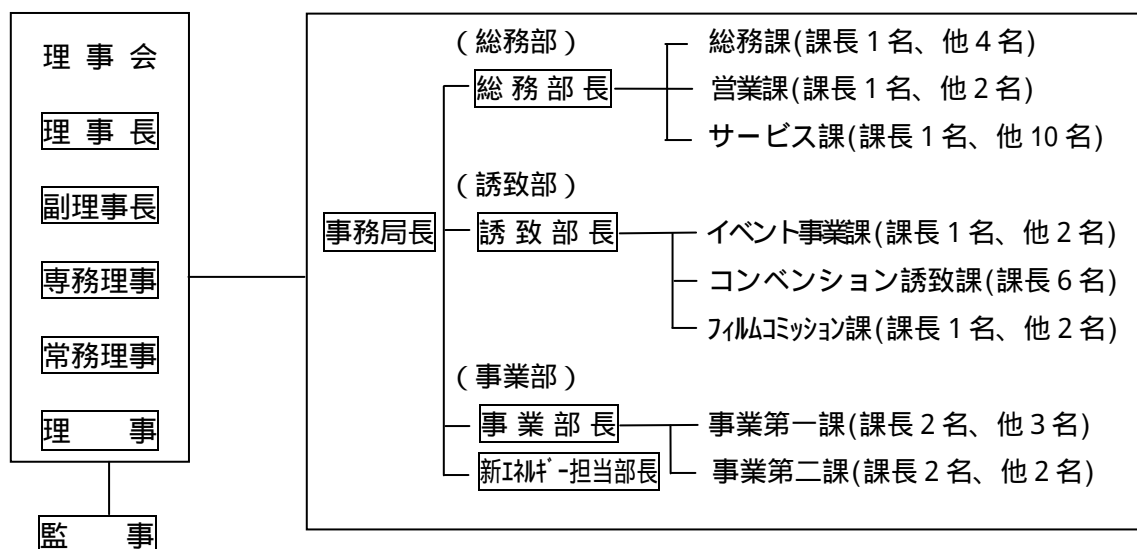
当協会は、内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興を図り、もってわが国経済の健全な発展に寄与することを目的に昭和 51 年に通商産業大臣認可で設立され、平成 17 年 7 月に(財)北九州コンベンションビューローの機能を統合し、名称を(財)西日本産業貿易コンベンション協会に変更しました。

現在は、昭和 52 年に建設された西日本総合展示場(現本館)と北九州国際展示場(平成 10 年 4 月に市が設置)及び北九州国際会議場(平成 2 年 10 月に市が設置)を一体的に管理・運営しながら、各種見本市・展示会の開催や会議・大会等の誘致をしています。

- |         |   |
|---------|---|
| 〔設 立〕   | 昭和 51 年 3 月 25 日  |
| 〔所 在 地〕 | 北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号<br>Tel 093 - 511 - 6848   |
| 〔目 的〕   | 内外の工業製品等の展示紹介を通じて、西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、北九州市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資し、もってわが国経済の健全な発展に寄与する。                          |
| 〔事 業〕   | (1) 内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援<br>(2) 各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援<br>(3) 前 2 号の事業の用に供する施設の管理及び運営<br>(4) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 〔基本財産〕  | 2,479,232 千円<br><うち本市出捐額 1,750,000 千円(70.6%)>   |
| 〔決算期〕   | 毎年 3 月 31 日   |
| 〔主務官庁〕  | 経済産業省、九州運輸局   |
| 〔本市所管〕  | 産業経済局産業振興部貿易振興課 (Tel 093 - 551 - 3605)  |

# 1 法人の組織

## (1) 機構図



## (2) 役職員数

	人数	人数の内訳			平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	22人	3人	0人	19人	61歳
職員	45人	11人	0人	34人	42歳

## (3) 役員名

〔理事長〕 重淵 雅敏

〔副理事長〕 麻生 渡、北橋 健治、明賀 孝仁

〔専務理事〕 安藤 英和

〔常務理事〕 村上 英治

〔理事〕 古川 康、金子 原二郎、蒲島 郁夫、広瀬 勝貞、東国原 英夫、伊藤 祐一郎、仲井眞 弘多、二井 関成、松尾 新吾、吉川 卓志、河部 浩幸、中野 文治、松尾 孝治

〔監事〕 加藤 憲治、羽田野 隆士、磯部 久治

## 2 主な事業実績（平成20年度）

### (1) 見本市・展示会事業

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画、開催した。

また、事業評価委員会からの提言等により、新たな事業の企画、より積極的な広報活動を行った結果、平成19年度に比して大幅に集客人数増を実現した。

#### 主催・共催事業

##### 1) 当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

地域における産業・貿易の振興を目的として、当協会は以下のとおり見本市・展示会を企画、開催した。

( )内は昨年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア2008	H20年5月2日～6日	55,032人 (41,335)	122社・団体 (91)
第48回西日本総合機械展	6月26日～28日	24,820人 (18,058)	73社・団体 (70)
第34回ふくおか産業技術振興展			36社・団体 (35)
アジア産業交流フェア2008			34社・団体 (35)
第30回西日本陶磁器フェスタ	9月19日～23日	46,859人 (41,228)	154社 (156)
九州・国際テクノフェアICT2008	10月8日～10日	27,942人 (15,092)	70社・団体 (118)
エコテクノ2008	10月22日～24日	34,656人 (29,039)	149社・団体 (190)
エコベンチャーメッセ2008			22社・団体 (55)
水素エネルギー先端技術展2008			44社・団体 (70)
中小企業テクノフェアIN九州2008			43社・団体 (36)
P.P.C.2008第10回西日本国際福祉機器展	11月28日～30日	25,416人 (26,410)	93社・団体 (105)
第28回西日本トータルリビングショー	H21年3月13日～15日	13,618人 (11,326)	118社・団体 (101)
合計	12事業	228,343人 (182,488)	958社・他 (1,062)

### 2) セミナー・シンポジウム等の併催

1) に掲げる当協会の主催・共催事業と並行して、セミナー・シンポジウム等を同時開催し、事業の相乗効果を高めた。

\* テーマ数 78 テーマ  
\* 総参加者数 8,162 名

#### 誘致・支援事業

総合的な営業力の強化に向けて、「営業推進本部」を設置し、営業課とサービス課の連携強化による効率的な営業を進め、企業・団体が主催する展示会、各種イベントなどの誘致に取り組んだ。

\* 総事業数 10 事業  
\* 総入場者数 100,719 人

関係団体との連携事業

1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、市等の地域政策の推進にあたり、行政機関はもとより、大学や関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

2) 九州半導体イノベーション協議会

九州シリコン・クラスター計画の組織母体である九州半導体イノベーション協議会からの受託事業として、セミコン・ジャパン 2008 へ出展した。

3) アジアとの連携・交流

ア 第 15 回九州（日本）・韓国経済交流会議の開催

九州経済産業局の所管する「第 15 回九州（日本）・韓国経済交流会議」の日本側事務局として関係団体・機関との交流を図った。

イ 第 8 回環黄海経済・技術交流会議への参加

九州経済産業局が所管し、環黄海経済・技術交流会議が実施した「第 8 回環黄海経済・技術交流会議」に参加し、関係団体・機関との交流を図った。

ウ 主催事業におけるアジア企業との連携

主催事業名	企業出展内容	関係国・機関等
西日本インポートフェア 2008	2 社、3 小間	韓国優良製品振興協会
	7 社、20 小間	タイ国政府貿易センター
	8 社、6 小間	スリランカ大使館
アジア産業交流フェア 2008	19 社・団体、19 小間	韓日産業・技術協力財団
	9 社・団体、9 小間	上海交通大学等
	5 社・団体、5 小間	タイ国大使館 経済・投資事務所
	1 社・団体、1 小間	ハノイ駐日代表部（ベトナム）
エコテクノ 2008	17 社（商談・交流会）	JETRO 海外対日投資企業
	16社、1 大学（商談会）	韓国産業団地公団
	10社（交流会）	大連市環境保護産業協会

(2) 会議・大会等

都市間競争が激化する中、本市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める大型コンベンションを誘致するため、全国のキーパーソンに積極的かつ計画的に誘致活動を行った。

特に、平成 21 年度からの開催助成金制度の拡充を受け、積極的に誘致活動を行った結果、国際規模や全国規模のコンベンションの誘致開催が決定した。

また、にぎわいづくりと経済波及効果を創出するため、北九州国際展示場（新館大展示場）の無料貸し出しを開始した。平成 20 年度には問い合わせのみであったが、平成 21 年度に入り、5 件が実施された。

主催・共催事業

北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した俳句、将棋、映画の上映等文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅北口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

* 総事業数	5 事業
* 総入場者数	26,077 人

#### 誘致・支援事業

コンベンションの誘致分野においては、都市間競争が年々激化の一途を辿っている。平成 20 年度においても誘致活動を有利に展開するため、引き続き開催助成金や支援の制度を活かすとともに新規分野の開拓にも努め、大型のイベントやスポーツ大会をはじめ、会議・学会等の誘致件数増加を目指して積極的な活動を行った結果、開催件数は前年度を上回った。

#### 1) コンベンション開催助成金の拡充による成果

平成 21 年度に実施されるコンベンション開催助成金の拡充を受け、積極的に誘致活動を行った結果、21 年度以降、12 件の新たな開催が決定した。これによる、参加者数は、2 万 1 千人が見込まれ、経済効果は約 4 億 2 千万円と推計される。

#### 2) 誘致・支援活動の取り組み

##### ア 会議主催者への誘致活動

工学、環境、医学など北九州市の特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議、大型学会等の誘致を目指し、市内の大学（九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学、産業医科大学、九州歯科大学）や九州大学、山口大学などのキーパーソンを対象として誘致活動を行った。また、首都圏の学会事務局や PCO（プロフェッショナル・コンGRESS・オーガナイザー）への営業も積極的に行うとともに、必要に応じて北九州市と連携した誘致活動を実施した。

また、平成 21 年 3 月 19 日に北九州イノベーションギャラリーを会場に、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学のキーパーソン 13 名の参加を得て、学術交流会を開催し、今後の学会誘致への協力体制の強化に努めた。

##### イ 大会主催者への誘致活動

スポーツ、文化、職域団体などの各種団体に対し誘致活動を実施した。首都圏などの団体事務局も積極的に訪問し、大型の大会誘致に取り組んだ。

また平成 21 年 2 月 17 日に国際会議場を会場に、福岡県体育協会やスポーツ競技団体のキーパーソン 32 名の参加を得て、スポーツコンベンション情報交換会を開催した。

俳句・吟行の誘致については、「俳句のまち北九州」をめざして、平成 5 年より誘致・支援に取り組んでおり、それにより広がった俳句結社・主宰とのネットワークを活用して大会・吟行の誘致活動を行った。

平成 20 年度は、遠賀郡の結社「青嶺」の全国大会、千葉県の結社「百鳥」の全国大会などを誘致し、市内各地を巡る吟行会を支援した。

##### 【国際ミーティング・エキスポ（IME2008）への出展】

東京国際フォーラムで開催された日本で唯一のコンベンション関係展示会・トレードショーである「第 18 回国際ミーティング・エキスポ（IME2008）」に出展し、来場したキーパーソンに北九州空港、本市のコンベンション施設・助成金制度の拡充等の支援内容、観光・文化施設などを紹介し誘致活動を行った。

##### ウ 東アジア地区への誘致活動

東アジア地区の研究者、大学教授等とネットワークを持つ地元工学系の大学・大学院教授（キーパーソン）を通じ、国際コンベンションの誘致活動を行った。ターゲットは台湾、中国、韓国、香港、シンガポール、タイ方面とし、地元教授が出席する学会・会議に同行し、現地キーパーソン、会議参加者等に北九州市開催を PR した。

##### 【第 16 回 IT & CMA2008 への出展】

タイ国バンコク市で開催されたアジア地域最大級の展示会である「第 16 回インセンティブ・トラベル & コンベンション、ミーティング・アジア（IT&CMA2008）」に出展し、オーガナイザー・旅行社 23 社と商談を行った。

## エ コンベンション助成金

平成6年度より北九州市コンベンション開催助成金制度を導入し、コンベンション誘致を積極的に展開してきた。

\* 助成件数 64 件  
\* 助成金 33,403 千円

## オ コンベンションボランティア

国際会議での語学応援、会場応援や日本文化体験など、ボランティア登録者が広く活躍できるよう主催者に対し、ボランティア制度のPRを積極的に行った。

\* 派遣件数 6 件  
\* 派遣人数 49 人

## 3) 誘致結果

誘致件数及び参加者数

区分	国際	全国	その他	合計
誘致件数(件)	49	63	71	183
参加者数(人)	27,870	36,609	32,092	96,571

## (3) フィルム・コミッション事業

北九州市の情報発信・イメージアップ、地域再発見・映像文化の向上・映像産業振興などを図るため、韓国などの海外も含め、積極的に映像撮影の誘致・支援事業に取り組んだ。

### ア 映画・ドラマの支援作品 9件

放送、配給or製作	タイトル	撮影期間	公開日・放映日
ワーナー・ブラザーズ映画/東宝	映画「おっぱいバレー」	H20.7.24～8.31	H21.4.18
「島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん」製作委員会	映画「島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん」	H20.8.23	H21.4.11
テレビ朝日	「警官の血」(前編)	H20.9.5～7	H21.2.7
テレビ朝日	「サラリーマン金太郎」	ロケはなし。支援のみ	H20.10.10～12.12
フェローピクチャーズ	映画「ぼくの、好きなひと」	H20.9.24、10.15	H21 公開予定
フジテレビ	「黒部の太陽」	H20.11.10	H21.3.21～22
テレビ東京	「女サギ師リリ子」	H20.12.6	H21.2.2～6
松竹	映画「風が強く吹いている」	H20.12.13～20 H21.2.1～3,7,11	H21.10.31
FBS 福岡放送局	「産業医工藤なごみ」	H21.2.14,17	H21.3.21

## イ ロケ隊による直接的経済効果

\* ロケ隊人数 408 人  
\* 直接経済効果 129,357 千円

## ウ 市民参加

フィルムコミッションの活動を広く市民に周知するとともに、映像製作支援の一環として積極的な市民参加を図った。エキストラとして延べ8,570人、ボランティアスタ

ップとして延べ500人、合計延べ9,070人の参加があった。

#### エ 北九州フィルム・コミッション懇話会の創設

北九州フィルム・コミッションの継続的な発展を図るため、市の関係部局、過去FC経験者、市内関係団体、市内映画館等と協議する場として、北九州フィルム・コミッション懇話会を創設した。懇話会では「戦略部会」「撮影支援部会」「支援作品活用部会」の三つの専門部会を設置し、誘致・支援活動に取り組んだ。

#### オ 北九州のロケ地としての可能性調査in韓国の実施

近年、韓国国内においては、映画製作が活況を呈しており、日本向けの映画も数多く撮影されている状況であり、北九州フィルム・コミッションの活動を海外に広げるための第一歩として、韓国映画誘致の可能性について調査を行った。

韓国ソウル市内の映画・ドラマ制作会社など21件にヒアリングを行い、北九州フィルム・コミッションのPRとともに、日本ロケの可能性のある作品については21年度以降の北九州市でのロケ実現に向けて協議継続中である。

### (4) 広報・宣伝活動

施設の利用促進や施設利用者のサービス向上及び見本市・展示会、会議・大会等各種コンベンションの誘致を積極的に図るため、ホームページの活用や機関誌の発行、新聞並びに業界紙等様々な媒体への広告掲載など効果的な広報・宣伝活動を行った。

特に、コンベンション開催助成金の拡充について、国際ミーティングエキスポ（IME2008）でのPRや業界紙に広告を掲載するなど積極的に広報・宣伝を行った。

#### 広報・宣伝

##### 1) インターネットの活用

当協会のホームページにて、催事情報や施設情報など最新の内容を逐次提供した。

##### 2) 機関誌「C O-」の発行

機関誌の発行を通じて、主催事業や誘致した展示会・イベント・学術会議・スポーツ大会など独自のコンベンション情報や市の観光・文化等に関する情報などを広く紹介した。(年4回 6,000部/回)

##### 3) コンベンションカレンダーの作成と提供

市内で開催されるコンベンション情報を収集・整理し、コンベンションカレンダーとして定期的に賛助会員等への提供を行った。

##### 4) コンベンションゾーンのPR

小倉駅北口コンベンションゾーンの知名度の向上を図るため、看板設置やCM放映を行った。

#### ア ペDESTリアンデッキ案内表示板のリニューアル

J R小倉駅と会場を結ぶペDESTリアンデッキ上の案内表示板をリニューアルし、より分かり易いものとした。

#### イ J R小倉駅J A M広場内でのCM放映

協会のCMを製作し、小倉駅J A M広場に設置しているマルチビジョンで放映した。

\* CM放映期間：4月1日～3月31日、放映回数 約70回/日

#### ウ 北九州空港電照看板の設置

継続して、北九州空港に電照看板を設置し、遠方よりの来訪者に小倉駅北口コンベンションゾーンのPRを実施した。

## 5) 営業ツールの作成

会場の認知度向上と利用促進のため10年カレンダー、メモ帳、クリアフォルダーなどの営業ツールを作成し、会場利用者を中心に配付した。

## 6) コンベンション開催助成金制度のPR

北九州市の緊急経済対策の一環として拡充されたコンベンション開催助成金制度について、全国的な情報発信を行うため、IME 2008でのチラシ配布や、E & C、見本市展示会通信、日刊工業新聞でのPRを行った。

### 地域の特性に応じた取り組み

## 1) 駅のある展示場事業 (JR九州等との連携)

### ア ポスター掲示

JR小倉駅と連結した本施設の立地環境をPRするため、JR小倉駅・北九州主要駅(5駅)に常設掲示板を設置するとともに、JR九州及びJR西日本各駅に主催事業のポスター等を掲示し、市内外からの集客向上を図るためのネットワークづくりに取り組んだ。

### イ リーフレット作成

小型時刻表・名刺型時刻表へ展示場の広告を掲載した。また、協会の主催事業である展示会案内とJR九州の主力観光をセットにしたリーフレットを共同制作し、JR九州管内の駅で配布した。

## 2) 小倉駅北口の振興

### ア 北口賑わいづくり事業

主要交通機関の結节点として、優れた機能を有する小倉駅北口地域において、魅力的なイベントなどを企画・開催し、小倉駅北口地区の賑わいづくりに寄与した。

### イ 小倉駅北口地区振興連絡会との連携

ホームページ「ホクホクガイド」の運営により、小倉駅北口で開催される各種イベントや地図情報などを紹介。当該地区を訪れる方々が回遊できるようにした。

市制45周年や環境モデル都市指定記念に行なう「北九州ミュージックフェスタ in 紫川 2008」の開催に先立ちプレライブを開催。小倉駅北口地区ににぎわいを創出した。

\* 開催月日：平成20年9月20日(土)～20年9月21日(日)2日間

\* 会場：AIMビル2階ギャラリー

\* 集客延人数：計800名

また、クリスマスの時期にあわせ、各々の団体にポインセチアのフラワーポットを配付し、地域の美化活動に取り組んだ。

## (5) 運営・管理

協会の健全運営を図るために、営業推進本部の設置など営業力の強化を図るとともに、中期経営計画に基づき、経費削減や人員削減に取り組んだ。

また、西日本総合展示場本館、新館及び北九州国際会議場の施設管理者として、公平・公正な管理を行うとともに3施設の一体的な管理により効率的・効果的な管理運営を図った。

指定管理者としては、第1期指定管理(平成18年度から平成20年度)の実績を高く評価され、第2期(平成21年度から25年度)の指定管理に選定された。

施設管理面では、お客様の利便性、安全性の向上を図るため、施設設備の改修改善等を行った。



## 営業推進本部の設置

展示場及び会議場の利用促進と稼働率の向上を図るため、新たに営業推進本部を設置し、営業とサービスが一体となった取り組みを行うなど、営業の強化を図った。

## 組織体制の見直し

中期経営計画に基づき、組織体制を見直すため、計画的に職員総数の見直しを行った。平成 20 年度末に、職員を 2 名削減し、職員数は、45 人となった。

(プロパー14人、市派遣 11 人、民間派遣 6 人、嘱託 9 人、人材派遣 5 人)

## お客様満足度の向上

### 1) 事務改善委員会の設置

お客様の利便性と安全性向上のため、事務改善委員会を設置した。協会内職員やお客様等から幅広くアイデアを募集し、改善できるものは迅速に対応し、満足度向上に努めた。

### 2) サービスの維持向上

#### 「お客様の声」ご意見番事業の実施

管理施設 4 箇所にお客様アンケートデスクを設置し、利用者のみならず、広く来場者から要望や意見(長所・短所)を収集活用することで施設管理業務の改善及びサービス向上の一助とした。「案内表示がわかりにくい」「備品の不良・汚れ」などのご意見をいただいたが、改善できるものは迅速に対応した。

### 3) 事業評価委員会の実施

平成 20 年から、当協会が実施する主催事業について、妥当性と効果及び効率性などを総合的に検証・評価し、事業実施の意義のより一層の向上や協会の経営の安定を図ることを目的として、外部の委員による事業評価を実施した。

平成 20 年度には計 6 回実施し、企画内容の充実や効率化の推進、PR 強化などの提言をいただき、主催事業の見直しを行った。その結果、入場者数が前年度に比べアップした。平成 21 年度においても引き続き事業評価を実施する予定である。

## 管理業務の効率化

### 1) 管理経費の削減

当協会が管理する 3 施設とキプロが所有する AIM ビルの 4 施設一体管理契約による効率化を図り、昨年に引き続き経費節減を行った。

さらに、主催事業委託等の各種契約において、複数業者による価格競争を徹底し経費の削減を行った。

### 2) エコアクション21認証取得に向けた取り組み

環境に対する職員の意識改革と経費節減を図るため、環境省策定の「エコアクション 21」の認証を平成21年7月に取得した。

## 施設の改善

利用者・来場者への利便性、安全性の向上を図るため、施設設備の改修改善等を実施した。

### 1) 西日本総合展示場本館改修改善関係

- ・エクスパンションジョイント改修工事
- ・内壁塗装工事
- ・トイレ改修工事(配管工事含む)

- ・中展示場フロア改修工事
- 2) 西日本総合展示場新館改修改善関係
  - ・集中自動検針システム改修
  - ・空調機中性能フィルター交換
- 3) 北九州国際会議場改修改善関係
  - ・低層棟屋根外壁防水塗装工事（市発注）
  - ・映像、音響関係設備改修

稼働率等

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)	成約高 (億円)
西日本総合展示場 (本館)	69	245	67.1	25	81
西日本総合展示場 (新館)	124	278	76.8	46	70
北九州国際会議場	697	306	84.8	8	-

3 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成19年度	平成20年度
出 捐 金 の 状 況	1,750,000	1,750,000
補 助 金	2,000	2,000
委 託 料	715,527	667,799
貸 付 金 残 高	0	0

#### 4 資産・収支の状況（平成 20 年度決算）

##### (1) 貸借対照表

平成 21 年 3 月 31 日現在（単位：円）

科 目	一般会計	展示会事業 特別会計	誘致支援事業 特別会計	指定管理者受託事業 特別会計	収益事業 特別会計	内部取引 消 去	合 計
資産の部							
1. 流動資産							
現金預金	54,637,683	69,077,223	28,609,576	109,035,888	16,987,402	0	278,347,772
印紙・証紙	0	0	0	0	10,796,003	0	10,796,003
未収金	5,151,593	12,169,947	321,729	1,185,935	5,453,298	0	24,282,502
前払金	91,287	0	0	0	0	0	91,287
短期貸付金	20,500,000	0	0	0	0	0	20,500,000
一般会計貸付金	0	0	0	1,798,110	18,523,369	20,321,479	0
展示特別会計貸付金	67,400,210	0	8,739	12,644,425	0	80,053,374	0
誘致特別会計貸付金	32,800,798	0	0	3,144,505	0	35,945,303	0
収益特別会計貸付金	0	0	0	3,605,051	0	3,605,051	0
立替金	83,992	0	0	0	0	0	83,992
仮払金	3,565,561	17,000	182,400	5,627,800	2,156,500	0	11,549,261
流動資産合計	184,231,124	81,264,170	29,122,444	137,041,714	53,916,572	139,925,207	345,650,817
2. 固定資産							
基本財産							
建物	607,820,668	0	0	0	0	0	607,820,668
建物付属設備	135,204	0	0	0	0	0	135,204
構築物	3,147,538	0	0	0	0	0	3,147,538
機械及び装置	127,111,536	0	0	0	0	0	127,111,536
基本財産引当資産	857,792,354	0	0	0	0	0	857,792,354
減価償却引当資産	883,224,720	0	0	0	0	0	883,224,720
基本財産合計	2,479,232,020	0	0	0	0	0	2,479,232,020
特定資産							
退職給付引当資産	115,559,346	0	0	0	0	0	115,559,346
減価償却引当資産	13,537,198	0	0	0	0	0	13,537,198
修繕引当資産	545,275,402	0	0	0	10,000,000	0	555,275,402
事業開催引当資産	12,196,778	0	0	0	0	0	12,196,778
特定資産合計	686,568,724	0	0	0	10,000,000	0	696,568,724
その他固定資産							
建物	3,652,740	0	0	0	0	0	3,652,740
構築物	0	0	0	0	3,697,680	0	3,697,680
車両運搬具	4,525,058	0	0	0	0	0	4,525,058
什器備品	8,575,150	0	0	0	412,168	0	8,987,318
ソフトウェア	3,492,913	0	0	0	0	0	3,492,913
投資有価証券	582,069	0	0	0	0	0	582,069
その他固定資産合計	20,827,930	0	0	0	4,109,848	0	24,937,778
固定資産合計	3,186,628,674	0	0	0	14,109,848	0	3,200,738,522
資産合計	3,370,859,798	81,264,170	29,122,444	137,041,714	68,026,420	139,925,207	3,546,389,339

<b>負債の部</b>							
<b>1. 流動負債</b>							
未払金	11,981,032	11,965,989	7,812,303	63,735,169	25,084,934	0	120,579,427
前受金	7,375,300	17,200,300	16,508,829	29,636,792	81,900	0	70,803,121
預り金	3,611,860	17,344	4,341,388	4,507,894	0	0	12,478,486
仮受金	480,000	2,456,848	37,542	36,300	63,230	0	3,073,920
一般会計借入金	0	67,400,210	32,800,798	0	0	100,201,008	0
誘致特別会計借入金	0	8,739	0	0	0	8,739	0
指定特別会計借入金	1,798,110	12,644,425	3,144,505	0	3,605,051	21,192,091	0
収益特別会計借入金	18,523,369	0	0	0	0	18,523,369	0
賞与引当金	13,527,961	0	0	0	0	0	13,527,961
<b>流動負債合計</b>	<b>57,297,632</b>	<b>111,693,855</b>	<b>64,645,365</b>	<b>97,916,155</b>	<b>28,835,115</b>	<b>139,925,207</b>	<b>220,462,915</b>
<b>2. 固定負債</b>							
退職給付引当金	115,559,346	0	0	0	0	0	115,559,346
<b>固定負債合計</b>	<b>115,559,346</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>115,559,346</b>
<b>負債合計</b>	<b>172,856,978</b>	<b>111,693,855</b>	<b>64,645,365</b>	<b>97,916,155</b>	<b>28,835,115</b>	<b>139,925,207</b>	<b>336,022,261</b>
<b>正味財産の部</b>							
<b>1. 指定正味財産</b>							
寄付金	856,000,000	0	0	0	0	0	856,000,000
展示場設備受贈益	736,101,174	0	0	0	0	0	736,101,174
基本財産運用益	1,792,354	0	0	0	0	0	1,792,354
指定正味財産合計	1,593,893,528	0	0	0	0	0	1,593,893,528
(うち基本財産への充当額)	(1,593,893,528)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1,593,893,528)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
<b>2. 一般正味財産</b>							
一般正味財産合計	1,604,109,292	30,429,685	35,522,921	39,125,559	39,191,305	0	1,616,473,550
(うち基本財産への充当額)	(885,338,492)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(885,338,492)
(うち特定資産への充当額)	(571,009,378)	(0)	(0)	(0)	(10,000,000)	(0)	(581,009,378)
<b>正味財産合計</b>	<b>3,198,002,820</b>	<b>30,429,685</b>	<b>35,522,921</b>	<b>39,125,559</b>	<b>39,191,305</b>	<b>0</b>	<b>3,210,367,078</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>3,370,859,798</b>	<b>81,264,170</b>	<b>29,122,444</b>	<b>137,041,714</b>	<b>68,026,420</b>	<b>139,925,207</b>	<b>3,546,389,339</b>

## (2) 収支計算書

自 平成 20 年 4 月 1 日

至 平成 21 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目	一般会計	展示会事業 特別会計	誘致支援事業 特別会計	指定管理者受託 事業特別会計	収益事業 特別会計	内部取引 消 去	合 計
事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
基本財産運用収入	21,456,473	0	0	0	0	0	21,456,473
特定資産運用収入	6,593,538	0	0	0	0	0	6,593,538
会 費 収 入	6,846,000	0	0	0	0	0	6,846,000
事 業 収 入	74,793,088	205,863,461	0	0	64,030,769	0	344,687,318
補助金等収入	0	19,988,569	78,751,961	583,047,208	0	0	681,787,738
負担金収入	15,002,039	0	0	0	15,525,215	0	30,527,254
雑 収 入	4,260,038	9,631,759	2,328,809	10,890,499	8,008,302	0	35,119,407
他会計繰入金収入	74,758,268	0	0	0	18,292,829	93,051,097	0
事業活動収入計	203,709,444	235,483,789	81,080,770	593,937,707	105,857,115	93,051,097	1,127,017,728
2. 事業活動支出							
事業費支出	77,170,158	225,127,463	86,868,077	483,350,512	66,461,985	0	938,978,195
管理費支出	5,417,264	21,333,107	17,098,798	22,756,356	4,272,624	0	70,878,149
その他事業活動支出	0	0	0	20,242,979	5,249,821	0	25,492,800
他会計繰出金支出	18,292,829	0	0	62,508,695	12,249,573	93,051,097	0
事業活動支出計	100,880,251	246,460,570	103,966,875	588,858,542	88,234,003	93,051,097	1,035,349,144
事業活動収支差額	102,829,193	10,976,781	22,886,105	5,079,165	17,623,112	0	91,668,584
投資活動収支の部							
1. 投資活動収入							
基本財産取崩収入	449,950,000	0	0	0	0	400,594,750	49,355,250
特定資産取崩収入	543,399,738	0	0	0	0	518,457,170	24,942,568
固定資産売却収入	0	0	0	20,157,045	0	15,508,695	4,648,350
投資活動収入計	993,349,738	0	0	20,157,045	0	934,560,615	78,946,168
2. 投資活動支出							
基本財産取得支出	498,409,337	0	0	0	0	400,594,750	97,814,587
特定資産取得支出	568,117,019	0	0	0	10,000,000	518,382,170	59,734,849
固定資産取得支出	17,595,118	0	0	3,480,945	0	15,508,695	5,567,368
投資有価証券取得支出	582,069	0	0	0	0	75,000	507,069
投資活動支出計	1,084,703,543	0	0	3,480,945	10,000,000	934,560,615	163,623,873
投資活動収支差額	91,353,805	0	0	16,676,100	10,000,000	0	84,677,705
財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出							
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	11,475,388	10,976,781	22,886,105	21,755,265	7,623,112	0	6,990,879
前期繰越収支差額	128,986,065	19,452,904	12,636,816	17,370,294	17,458,345	0	131,724,984
次期繰越収支差額	140,461,453	30,429,685	35,522,921	39,125,559	25,081,457	0	138,715,863